

## 5 統計資料

### (1) 人数, 平均点及び標準偏差

[表2]は、人数、平均点及び標準偏差の推移をまとめたものである。平成26年度は、昨年度と比較して、調査校全体で平均点は5.8点下降し、標準偏差は0.7ポイント下降している。

人数, 平均点及び標準偏差の推移

[表2]

年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
人数	29,980	30,555	30,474	32,015	31,050	30,914	31,305	31,759	31,976
全体	65.6	60.1	54.9	56.6	60.8	61.7	61.1	57.0	51.2
標準偏差	22.7	22.4	23.2	21.4	25.0	23.6	23.2	24.1	23.4
普通科	67.4	62.0	57.1	58.5	63.0	64.0	63.2	59.0	52.9
標準偏差	22.3	22.0	22.7	21.2	24.5	23.1	22.7	23.9	23.4
総合学科		42.1	35.1	42.7	43.9	44.7	44.9	41.5	40.0
標準偏差		17.3	16.0	15.9	20.5	19.1	19.5	18.1	16.9
商業科系	47.9	43.6	34.3	40.9	42.9	44.3	43.1	40.0	38.7
標準偏差	16.7	15.3	15.0	14.1	19.0	16.9	16.8	16.0	15.4
家庭科系	48.7	43.7	37.0	40.3	38.9	43.3	41.8	38.1	31.9
標準偏差	20.3	18.4	15.5	15.9	19.7	19.0	18.4	16.9	15.6
英語科系	88.0	77.0	74.5	71.8	78.2	81.1	77.3	79.4	73.5
標準偏差	10.1	15.8	18.5	17.6	20.1	15.0	17.0	16.1	17.5
工業科系	48.4								
標準偏差	19.3								
他の学科	48.5	42.0	31.1	35.0	37.8	40.1	40.3	37.6	34.6
標準偏差	20.6	20.1	19.4	19.3	21.3	20.5	21.1	20.1	19.2

(注1) 平成18年度以前の「総合学科」及び平成19年度以降の「工業科系」は、「他の学科」に含む。

(注2) 平成21年度については、約10年前の生徒の学力との比較のため平成11年度を中心とした過去の問題を使用した。

### (2) 平成26年度学校平均点の分布状況

[表3]は、学校平均点の分布状況をまとめたものである。同一学科の学校間で相当の得点差が見られる。なお、普通科における学校平均点較差(最高点-最低点)は、74.0点(最高点88.0-最低点14.0)となっている([表4])。

学校平均点の分布状況

[表3]

得点域	-90	-85	-80	-75	-70	-65	-60	-55	-50	-45	-40	-35	-30	-25	-20	-15	-10	-5	合計
全体	0	4	4	3	5	9	10	8	13	11	14	14	10	13	14	7	3	0	142
普通科	0	4	3	3	5	8	9	6	10	8	8	8	6	9	8	5	1	0	101
総合学科	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	0	1	1	0	0	0	0	5
商業科系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	1	2	1	0	0	0	0	7
家庭科系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	5	1	1	3	0	1	0	13
英語科系	0	0	1	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4
他の学科	0	0	0	0	0	0	0	1	2	0	2	0	0	1	3	2	1	0	12

(注) 受験者数10名未満の学校(学科・コース)は含まれていない。

普通科における学校平均点較差（最高点－最低点）の推移 [表4]

年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
得点差	76.3	74.0	72.1	72.4	78.1	76.0	74.9	77.2	74.0

(3) 設問別正答率 (%) (過去との比較)

[表5]は、抽出答案による設問別正答率を年度ごとにまとめたものである。年度により出題内容や難易度が異なるため、単純な数値の比較は困難であるが、今年度は、過年度と比較して設問【1】発音と【5】口語表現の正答率が低いことが分かる。

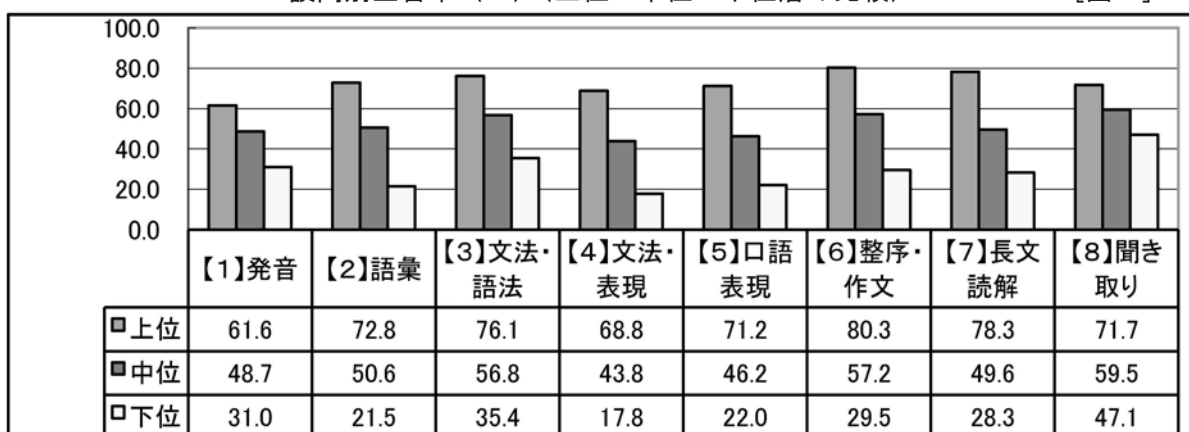
設問別正答率 (%) の推移 (過去との比較) [表5]

年度	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
抽出人数	3,075	3,108	3,102	3,252	3,158	3,284	3,227	3,204	3,265
全設問	65.6	60.1	54.9	56.6	60.8	61.7	61.1	57.0	51.2
【1】発音	43.6	63.9	54.2	53.3	48.5	65.4	45.2	66.6	46.9
【2】語彙	58.7	59.6	44.5	53.0	54.0	46.4	50.6	41.2	47.9
【3】文法・語法	71.3	57.3	71.1	55.5	67.2	68.8	79.0	67.0	55.7
【4】文法・表現	63.9	54.4	49.4	42.6	66.8	47.9	53.3	40.3	42.9
【5】口語表現	89.9	62.4	67.6	86.4	76.7	70.7	74.4	73.5	45.8
【6】整序・作文	55.9	54.6	49.1	42.8	56.3	65.7	55.6	55.2	55.2
【7】長文読解	65.3	61.5	51.5	54.8	62.3	61.8	63.7	52.7	51.2
【8】聞き取り	79.0	65.7	52.7	72.1	50.6	60.0	70.7	75.1	59.1

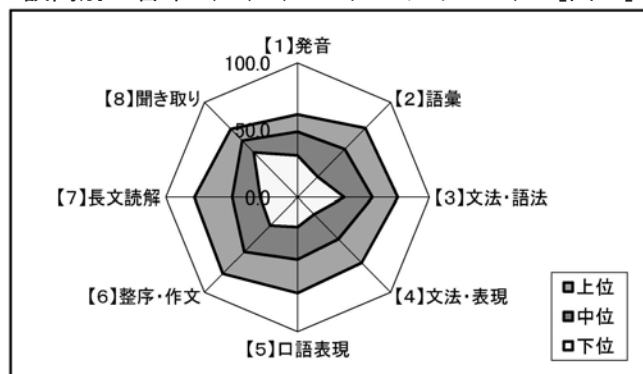
(4) 平成26年度設問別正答率 (上位・中位・下位層の比較)

[図1]は、調査校147校(学科・コース)から抽出した3,265名中の学校平均点上位28校(偏差値55以上)に所属する946名(上位層)、学校平均点中位53校(偏差値45以上55未満)に所属する1,292名(中位層)及び学校平均点下位66校(偏差値45未満)に所属する1,027名(下位層)の設問別正答率をグラフにしたものである。

設問別正答率 (%) (上位・中位・下位層の比較) [図1]



設問別正答率 (%) (レーダーチャート) [図2]



[図2]は[図1]をレーダーチャートにしたものである。各設問における各層の正答率を見ると、設問【2】語彙、【4】文法・表現で各層の差が大きく、特に下位層の正答率が低い。一方、設問【1】発音、【8】聞き取りでは、各層の差が小さくなっている。